

沖縄看護卒業研究発表会で我那覇綾子さん、久場川美波さん、大城愛梨さんが優秀演題賞を受賞！

2021年2月16日（火）にオンラインで開催された第5回沖縄看護卒業研究発表会（主催 一般財団法人 生命医学研究振興財団 理事長 北城武司氏）にて、保健学科4年次の我那覇綾子さん（基礎看護学分野：指導教員 豊里竹彦）と、久場川美波さん（成人・がん看護学分野：指導教員 照屋典子）が最優秀賞、大城愛梨さん（成人・がん看護学分野：指導教員 照屋典子）が優秀賞を受賞しました。

おめでとうございます！ 研究テーマは以下のとおりです。

我那覇綾子さん「看護職のワーク・ファミリー・コンフリクトとソーシャル・キャピタルが離職願望に及ぼす影響」

久場川美波さん「がん体験者を活用した小学6年生児童へのがん教育授業による教育効果の検討」

大城愛梨さん 「沖縄県がん患者会における運営上の困難・工夫と医療者に対するニーズの検討」

保健学科では、3年生から4年生にかけて、人々の健康や看護の諸問題を明らかにし、問題解決に向けた研究に関する基礎（研究方法論、調査法、研究発表及び研究論文の作成方法）を学ぶ「卒業研究」を必修科目として取り組んでおり、今回はその成果を発表していただきました。

4月から県内外の病院で看護師として従事しますが、「本研究での学びや成果を これからの看護実践に活かしてしていきたい」と語っていました。



オンラインでの開催の様子



受賞した皆さんと記念撮影

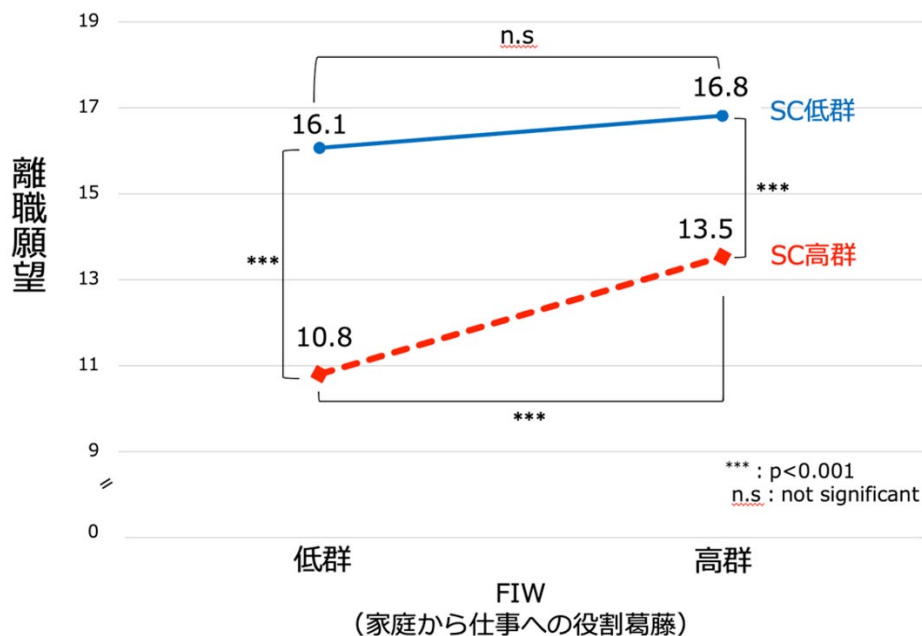
看護職のワーク・ファミリー・コンフリクトとソーシャル・キャピタルが 離職願望に及ぼす影響

琉球大学 医学部 保健学科 我那覇綾子

【目的】 本研究では、多重役割を担う看護師を対象にワーク・ファミリー・コンフリクト（WFC）と離職願望との関連およびソーシャル・キャピタル（SC）における緩衝作用について検討することを目的とする。

【対象・方法】 沖縄県内外の19病院で勤務する看護職702名に対し、自記式無記名質問紙調査を行った。調査内容および分析方法は、男女別に離職願望を従属変数、WFCの2つの下位概念である仕事から家庭への葛藤（WIF）、家庭から仕事への葛藤（FIW）、SCおよびWIFとFIWそれぞれとSCの交互作用項を独立変数、基本属性を調整変数とした階層的重回帰分析を行った。本研究では、SPSS25.0Jを使用し、有意水準5%未満を統計的有意とした。なお、本研究は琉球大学人を対象とする医学系倫理審査委員会の承認を得た。

【結果と考察】 基本属性は男性（15.9%）、女性（84.1%）であり女性が多数を占めた。女性にのみFIW低群と高群ともにSC低群に比べ、SC高群の離職願望が有意に低値を示した。またSC低群では、FIW高群と低群における離職願望に有意差を認めなかった。SC高群では、FIW高群がFIW低群に比べ離職願望が有意に高値を示した。つまり、女性は家庭から仕事への役割葛藤の高低にかかわらず、ソーシャル・キャピタルの高い看護師は離職願望が低くなること示唆され、一方でソーシャル・キャピタルが高い状況においては、家庭から仕事への葛藤が高い看護師は、離職願望が有意に高くなること示唆された。



女性における離職願望とFIWおよびSCとの関連

がん体験者を活用した小学6年生児童へのがん教育授業による 教育効果の検討

琉球大学 医学部 保健学科 久場川美波

【目的】 小学校6年生児童へがん体験者を活用したがん教育授業を行い、児童のがんやがん患者に対する認識を明らかにし、今後、小学校におけるがん教育を推進する上での課題について検討することを目的とした。

【方法】 県内A小学校児童69名を対象とし、担任教諭ががんに関する授業をした2週間後、がん体験者による“いのちの授業”を実施し、児童が記入したワークシートを質的に分析した。

【結果及び考察】

分析の結果、がんは〈2人に1人がかかる身近な病気〉であり、〈生活習慣に気をつけていてもかかることがある〉ため、〈大切な人にもがん検診や健康診断を勧める〉ことを学んでおり、家族へ検診の重要性を伝える波及効果も期待されることが示唆された。授業前は、がん患者に対し〈暗く元気がないイメージ〉を抱いていたが、〈明るくて前向きに生きている〉人へ認識が変化していた。また、大切な人ががんになった場合、【励まし支えとなる】ことや今後は【日頃から自分や周りの人を大切にする】等が抽出され、自他の命の大切さを考えるきっかけにもつながっていた(表1)。以上のことから、児童へのがん教育にがん体験者を活用することで、がんに関する正しい知識やがん患者に対する正しい認識、さらに共生の姿勢の醸成につながることを示唆された。今後、がん教育を推進していく上で、学校教諭や一般市民へこのようながん教育の効果について、普及啓発を図ることが必要と考える。

表1 児童の学びに関する主なカテゴリーとコード例

| ワークシート質問項目 | 主なカテゴリー | コード例 (コード数) |
|---------------------------|------------------------|-----------------------------------|
| がんについて わかったこと | がんの特徴・特性 | 2人に1人がかかる身近な病気 (8) |
| | | 喫煙や飲酒など生活習慣と関連している (4) |
| | | 生活習慣に気をつけていてもかかることがある (9) |
| | | 自分で気づく場合と気づかない場合がある (17) |
| | | 必ず死ぬわけではなく、治るがんもある (5) |
| がん患者のイメージに ついて変わったこと | がんの治療や 副作用 | さまざまな治療があり、時間や体に負担がかかる (8) |
| | 授業前のイメージ | 治療によって髪の毛が抜けることもあるが、抜けないこともある (5) |
| がんの予防や早期発見の ためにできること | がん患者について 感じたこと | 暗く、元気がない、辛そうなイメージがあった (20) |
| | | 車椅子に乗っているイメージがあった (9) |
| | 健康的な生活を おくる | 明るくて前向きに生きている (53) |
| | | がんになっても普通に生活できる (18) |
| 検診や受診で早期発 見に努める | 健康的な生活を、規則正しい生活を送る (9) | |
| | タバコは吸わないようにする (9) | |
| | お酒を飲み過ぎないようにする (6) | |
| 大切な人ががんになっ た場合、自分出来ること | 励まし、支えとなる | 禁煙や節酒をするよう家族へ伝える (5) |
| | | がん検診や健康診断を受ける (37) |
| いのちの授業を受けて これからやりたいこと | 日頃から自分や周り の人を大切にする | 定期的、または異常があれば病院を受診する (9) |
| | | 大切な人にもがん検診や健康診断を勧める (8) |
| | これからの生き方 | 声をかけて励ます、治療を応援する (26) |
| | | できるだけ側にいて支える (26) |
| これからやりたいこと | やりたいことは生きているうちにやる (8) | 相手を傷つけるような言葉を使わない (12) |
| | | 自分や周りの人の命の大切さを考える (10) |
| | | 将来、人のためになることをしたい (5) |
| | | 前向きに生きていきたい (2) |

沖縄県がん患者会における運営上の困難・工夫と医療者に対するニーズの検討

琉球大学 医学部 保健学科 大城愛莉

- 【目的】** 沖縄県がん患者会の運営者が抱える困難及び医療者に対するニーズを明らかにし、医療者とがん患者会との連携及び協働の推進に向けた示唆を得ることを目的とした。
- 【方法】** がん患者会 12 団体の運営者 13 名を対象に、半構造的インタビューを行った。調査内容は、基本属性、患者会の概要、運営上の困難及び工夫、医療者に対するニーズである。
- 【結果】** 対象者は男性 4 名、女性 9 名、30～70 歳代であった。分析の結果、運営者は【活動資金不足】、【運営者の負担増】、【広報活動の限界】、【患者会の拡大を図ることの難しさ】、【医療者との連携の難しさ】という困難を抱えながらも、【活動資金の獲得】、【予算やニーズに合った活動場所の選定】を行い、役割分担することで【運営者の負担軽減】を図っていた。離島患者会の運営者は〈がんであることを知られたくない人が多いため患者会の呼びかけが難しい〉等の特有の困難を抱えていた。また、運営者は医療者に対して、【患者会について患者へ情報提供してほしい】、【専門職の立場から支援してほしい】等の支援を求める一方で【患者会として病院に協力したい】と考えていることも明らかとなった（表 1）。
- 【考察】** 医療者とがん患者会との連携及び協働を推進していく上では、医療者が患者会活動に関心及び理解を深めるとともに、患者会と医療者の双方が互いの役割を認識し、対等な関係で連携できる体制を構築する必要性が示唆された。

表 1 医療者に対するニーズ

| カテゴリー | コード例 |
|---|--------------------------------------|
| 患者会について 患者へ情報提供してほしい | 患者会のチラシやポスターを病院内で患者の目につきやすい所に掲示してほしい |
| | 患者会のことを患者に情報提供してほしい |
| | 患者にがんハンドブックの案内をしてほしい |
| 専門職の立場から 支援してほしい | 医師に定例会などで治療について情報提供してほしい |
| | 定例会で看護師や薬剤師に栄養面や薬などの話をしてほしい |
| | 定例会でソーシャルワーカーに治療費や高額医療について説明してほしい |
| | 喉頭摘出者のリハビリテーションを支援してほしい |
| がん診療連携協議会やがん相談 支援センターはがん患者や患者 会を支援してほしい | がん診療連携協議会は患者代表の意見を受け止めてほしい |
| | がん相談支援センターはピアサポーターと病院をつなぐ役割を担ってほしい |
| | がん相談支援センターは患者会の運営を積極的に支援してほしい |
| 患者会として 病院に協力したい | 地域の病院を育てるために患者会として協力したい |
| | 病院でピアサポーターとして患者の心を支える活動がしたい |